

P8310778.JPG 2019/02/28

慶応四年七月十三日より慶応四年七月十九日まで

P8310778right

十三日子 朝雷殷々(*)至午止漸々薄晴

名主並円蔵、つるゝ夫妻へ中元賀遣す、快翁に□□新□に付、野菜一籠つつ、各家え為持遣す、精霊□□を賀し団粉時新巢、西瓜、梨を供へ、庭燎(*)を設けて□て迎え奉る

十四日丑 陰雨時に数廻入□雷雨到初更(*)

北村より唐茄、唐もろこしと(登)贈り来る

十五日寅 雨断続

休左衛門来る、高松藩伊藤両家被地(*)安着状(六月二十四日附)持来、同人並別当給分給し難き

残にて晴実説諭し遣す、尤も休左衛門は猶来月は一口分給して遣受申含む、精霊位、え時新品其多団粉等を供し庭燎を設け送り奉る

P8310778left

十六日卯 雨午前止漸晴 無記事 暖度七十九度(26.1C)

十七日辰 晴雲午下暴雨一過

□児次郎を携へ茶溪邸へ行き小品並自用酒肴を持来、□児は礪川を問ふ帰途雨に

逢ふ切通坂下鰻舗に雨を逃、黄昏前帰宅、□□藩□□卷一小折を持来り俄に病曲、

□僕に□ら迄、船を雇て帰りし□

十八日巳 雨終日 無記事

十九日午 雨朝止漸晴

□□病を問わしめ麦一重遣す、須崎常来る梨五蜀黍二持来、□ふる麦一重を以す

且□□より頼□□趣にて十円金借用の需(もとむ)あり、又円金遣す

*1:殷々は雷の音(雷聲のさま)

*2:庭燎(にわび)神事の際庭にたく篝火(かがりび)

*3:初更(しよこう)、時刻、戌の刻、現代の19時から2時間後まで

*4:被地(ひ)ひち、樹木や草で覆われた土地、「彼地」かもしれない。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。